

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ()

当施設リハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ①転倒転落件数の減少(目標250件以下)
- ②肺炎予防
- ③活動量の向上
- ④質の向上

●構造 structure

【物的資源】

・PT評価バッテリー、データ入力のシート

【人的資源】

・PT9名(管理者1名、訪問4名、入所3名、通所1名)
・所有資格:3学会合同呼吸療法認定士3名、転倒予防指導士1名、臨床実習指導者講習会終了者6名

【組織的特徴】

・文献抄読とケースカンファレンスの実施
・実習生への指導

●過程 process

- ①ひとつの指標となるようなPT評価の追加を検討
(通所・入所・訪問で身体機能を比較できるように評価項目を検討)
部内でのヒアリング報告継続
- ②呼吸筋に対するアプローチ検討、他職種と連携して食事姿勢など評価
- ③5階集団体操を継続して実施。またメンバー選定や運動内容を検討
- ④文献抄読6回、ケースカンファレンス3回(通所・入所・訪問)実施

●結果 outcome

- ①転倒転落件数139件(R5.2月時点)
入所では膝伸展筋力、握力、CS-30の評価を追加→11月より導入
訪問ではSFBBS、2ステップテストの導入を検討中
- ②肺炎での入院件数7件(R4.10月時点)
・今回、呼吸筋に対するアプローチは実施できなかった。呼吸筋力の測定はリハビリ合宿で継続中
・ST、OTと連携して食事姿勢について評価・検討する機会は増えた
- ③活動量の向上
・今回は明確な活動量の評価は実施できなかった
普段はリハビリに消極的な利用者も集団体操では積極的に運動される場面もあり、活動を促すことができた
- ④質の向上
・予定通りに文献抄読6回とケースカンファレンス3回実施

《次年度持ち越し課題》

PT評価の検討、データ集計・分析
肺炎予防・活動量向上を含めたフレイル評価の検討